

(様式2)

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590400071		
法人名	社会福祉法人つばめ福祉会		
事業所名	グループホーム保内の杜		
所在地	新潟県三条市上保内乙533番地7		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成28年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム保内の杜は、平成22年4月開所以来、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共に、地域に浸透し貢献できる事業所を目指し、取り組んでいます。

当事業所は保内地域の中心部に位置し、近くに小学校や保育所、公園や植物園、公民館、JR駅などの公共機関があり、緑豊かな自然に囲まれた地域にあります。また、毎年、年2回の避難訓練やAEDの使用法と心肺蘇生訓練、また恒例の夏まつりや本成寺の鬼踊り披露公演、新年には地域交流会を企画して、地域の皆様とともに事業運営を行っています。

サービス面では、併設事業所の利点を活かして、グループホームと併設の小規模多機能型居宅介護事業所職員全員でサービス提供できる勤務体制を整え、ご利用者と職員全員が馴染みの関係の中で、より柔軟で多彩な支援が提供できるように取り組んでいます。

三条市のグループホーム情報交換会に参加し、それぞれの特徴ある取り組みを参考にしながら、ゆったりと落ち着ける雰囲気を提供し事業所の理念である「気持ちのいい杜」実現のため、話し合いを行って事業を推進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は三条市内の園芸が盛んな地域の住宅街に位置し、近隣には公園や庭園、小学校などがあり、緑豊かな自然の中で利用者は四季を感じながら過ごすことができている。

建物は、1階が小規模多機能型居宅介護支援事業所、2階がグループホームとしてなっている。職員は、両事業所を兼務する形で配置されているため、全職員が利用者にとっては馴染みの職員となっており、暮らしの中での安心につながっている。日頃から利用者同士の交流もあり、グループホームへの入居後も、地域とのかかわりが小規模居宅介護支援事業所の利用者を通じて継続できている。

職員は地域密着型サービス事業所としての役割を認識して地域との交流に努めている。利用者と職員が地域行事へ参加したり、事業所行事への地域住民に参加してもらうことなどを通じて、交流は年々広がり、地域からの信頼も得られてきている。

管理者と職員は利用者のより良い暮らしを支援するために、常に利用者の視点に立って業務の振り返りを行いながら、日々サービスの質の向上に取り組んでいる。事業所内は居室・廊下・食堂・居間共に全面畳敷きであり、職員が多様なアイデアを出し合って工夫しながら、利用者が居心地良く過せるよう環境づくりをしていることがうかがえる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づいた職員行動指針を朝会時に唱和し、理解を深めている。また、サービスの目的や役割を理解し、「その人を知る」「気持ちのいい杜」を目標に上げて取り組んでいる。定期的なケアカンファレンスや日々の相談・報告の中で実践状況の振り返りをしている。	法人の理念をもとに、事業所でも職員参画により行動指針と目標をつくり、日々サービスの提供を実施している。一人ひとりの利用者を理解し、利用者が居心地の良い暮らしが送れるように全職員でチームケアを実践している。行動指針は毎日唱和を行うことで周知が図られており、カンファレンス等において振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の年間行事には地域の皆様の協力を得て開催している。また、地域の各種行事にはご利用者の外出の機会として参加し、地域の夏まつりでは職員がよさこい踊りを披露し、交流を深めている。	「ふれあい祭り」への職員参加や地域住民が集う「地域交流会」へは、職員、利用者家族、ボランティア等が集い、住民と交流できる機会となっている。また、事業所が開催する「夏祭り」においては、地域の全世帯にチラシを配布し参加を呼びかけ、年々多くの住民から参加が得られるなど地域のイベントとしても根付いており、交流の機会が拡大してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校との交流や地域行事への参加を通して、地域に出かけていく機会を設けている。また小中学校の挨拶運動期間には事業所前の通りに立って挨拶を実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の会議では事業所の活動状況と事故苦情(インシデント含む)の状況報告を行っている。今年度は介護職員も会議に参加できる体制をつくり、推進委員の率直な意見や助言を聞いて、職員と情報共有し、サービスの向上意識を高めている。	利用者、家族、地域住民代表として区長、三条市職員、小学校長等をメンバーに開催している。内容は主に運営状況や事故報告等であるが、年に1回は食事を利用者と一緒に食べ、日常の様子を知る機会としている。災害時の対応についての課題等は継続的な検討事項となっており、今年度からは現場職員も会議に出席して検討を重ねるなど、会議の活用が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に、メールや電話で質問や相談を行っている。必要時は出向いて報告し、助言をもらっている。今年度は三条市の認知症ケアサポート会議に協力事業所として参加している。	運営推進委員のメンバーとして市の高齢介護課職員から参加を得られており、日常的な運営状況についての報告や課題について共有しやすい環境にある。また、制度等に関する相談には市の窓口に出向き、気軽に相談できる関係が築かれている。地域包括支援センター主催で開催される「認知症ケア会議」にも参加して連携を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活環境において、禁止の対象となる行為は何かを職員間で話し合いを行い、抑制しない支援に努めている。同時にその人の気持ちを確認し、支援方法を検討し取り組んでいる。	年に1回身体拘束についての研修会を実施し、「禁止の対象となる具体的な行為」について全職員が理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。一人ひとりの利用者の思いを知ること、安心・安全な環境の中で暮らせるよう支援している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人では新人職員や管理者対象の研修会で虐待防止に向けて考える機会を設けている。そこで、日常の接遇場面を振り返り、ご利用者のケアにおいて苦慮している点や職員の負担はないかなど、職場内で話し合いを行っている。	利用者一人ひとりに向き合って理解をしたうえでチームケアを行うことで、不適切なケアの防止に取り組んでいる。年に1回研修会を実施し、言葉による虐待等についても確認している。管理者は常日頃の職員の様子を把握し、いつもと違う様子が見られたときには声かけを行う等、職員が悩みや負担感を抱え込まないように支援している。法人としても「産業カウンセラー」を配置し、ストレスケアに対応できるように体制が整っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時、情報提供できるように、研修に参加し知識を深めている。また、地域包括支援センターの職員や後見人(弁護士)との関わりを通して、情報交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項の内容や利用料金について、パンフレットなどを活用して分かりやすい説明に心がけている。介護度の変更に伴う料金についても、その都度、説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議でご利用者やご家族の意見を伺って、プランに反映している。	常日頃から利用者・家族に対し意見・要望を引き出せるように問いかけており、掃除の徹底等の日常的な要望についてはすぐに対応するように取り組んでいる。「地域交流会」や「サービス担当者会議」、面会時などはゆっくり家族から意見が聞ける機会として活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している行事や学習会は職員が担当し、議題を協議しながら行っている。また、職員会議や人事考課の面談時には、職員の意見を聞き、改善に向けた提案をしてもらう体制で実施している。	人事考課の面接を活用して職員からの意見・要望を聴く体制が整っている。今年度は職員の提案により会議体系を見直し、全職員から運営状況や検討課題等が見えやすいように小グループ制での会議開催を実施した。全職員に課題等の周知が図られるなど効果が見られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が毎日の労働時間を管理表に記載し、役付職員は超過業務の内容や状況確認を行っている。そのうえで就業環境の整備や見直しを協議し、改善計画を作成し実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の目標に沿って、資格取得や外部研修に臨めるように情報提供している。また法人内の教育研修室のバックアップにより、各種学習会の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士養成校や実践リーダー研修からの実習受け入れ時や三条市のグループホーム情報交換会への参加により、日々のケアに対しての振り返りや気づきを得る良い機会となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや契約の前に見学を勧め、環境変化による不安の解消に努めている。その中で、ご本人の言葉や気持ちを汲み取り、関係作りに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の迷いや思い、また苦労話など聞いている。不明な点や困っている点など、ゆっくりと話を聞く姿勢を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の機能や特徴を説明し、ご本人やご家族の要望やニーズに沿ったサービス内容を一緒に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人を知る」「気持ちのいい杜」を事業所目標に掲げて、ご利用者の生活支援に努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支え合えるように、定期受診の付き添いや必要物品の持参を随時依頼している。またその人らしい暮らし方ができるように、できること、できないこと、またできていたことやその人のこだわりのあることも含めて話し合い、支援内容を一緒に考えている。	定期受診は家族に対応してもらっているほか、理美容室や買い物等も利用者の希望に応えられるように家族と協働して支援している。また、居室の様様替えや衣替えも家族の協力を得ながら一緒に行うことができている。家族には夏祭りなどの行事にも参加してもらっており、利用者と家族が楽しい時間を共有でき、利用者の笑顔につながっている。	今後さらに、日常的な利用者の暮らしぶりや、外出時の利用者の笑顔などが家族にも伝わるように、事業所独自の「お便り」の作成を再開し、家族や運営推進会議の委員、ボランティア等にも共有してもらえ取組みを期待したい。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の訪問時はゆっくり落ち着いて過ごせる場所を提供している。また、ご家族の協力により、昔から行きつけの理美容店やまつり行事の参加など支援している。	入居時の情報やその後の情報の積み重ねの中で得られた馴染みの場所やこれまで親しんできた趣味については継続できるように支援している。例えば、毎年「三条祭り」を楽しみにしている利用者には祭りへの参加を支援したり、「習字」「木目込み人形」等の慣れ親しんだ趣味を本人のペースで楽しめるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はご利用者が共に助けあって暮らしていく大切さを理解し、孤立やトラブルにならないように食事の席や居場所を変更し、媒介に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は面会や電話連絡による情報交換を行い、ご家族の不安解消に努めている。また、住み替えについては環境変化によるリスクを最小限にできるよう情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を日常の会話や暮らし方から汲み取り、個別介護留意事項(アセスメントシート)に記入し、職員間の共有とプランへの移行に活用している。また、必要に応じて、ご家族の意向やこれまでの暮らし方を情報シートに記入してもらい活用している。	一人ひとりの利用者の暮らし方への要望や意向については、担当職員のみではなく、全職員が日常生活の中から気づきや情報を拾い上げている。利用者の視点に立って把握できた意向等については、アセスメントシートに加筆し、全職員で共有を図りながら検討したり、定期的に情報を更新している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者個々の生活様式や全体像を個別介護留意事項に記録し、職員間の共有に努めている。新たな発見や情報は、その都度、追記し更新している。	入居前には、これまで利用していたサービス事業所からの情報や家族からの情報を得て、これまでの暮らしぶりや生活習慣等の把握に努めている。入居後も、関係者や利用者本人から情報が得られることも多く、その都度情報を積み重ねて支援に活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「気持ちのいい杜」を提供するために、一人ひとりのその人らしさを追求し、できる力、分かる力に目を向けて、職員による過剰支援にならないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で上がったご家族の意見やご本人の意向を尊重し、担当職員が介護計画を作成している。その後は毎月のモニタリングと随時のカンファレンスで確認し、状態に応じた援助内容になるよう見直しをしている。	新規の利用者については、入居前の面接等で得られた情報をもとに暫定プランを作成し、1ヶ月後の見直しを経て本プランを作成している。利用者・家族の意向を引き出し、利用者がその人らしく暮らし続けるための目標の実現に向けて、連動性のあるサービスを提供している。6ヶ月ごとに現場職員の意見を聞きながら支援内容を振り返り、利用者個々の担当職員、管理者、計画作成者で見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の記録と細かな変化や気づきを記録し、職員間の共有や個別ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居後についても、ご利用者やご家族の状況に応じて、法人内外のサービス事業への移行も視野に入れて支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店や理容室、ボランティアや民生委員、他にも多くの力を借りて、共に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者のかかりつけ医との関係性を継続できるように支援している。また状況に応じて専門医の受診を必要とする時や状態に不安のある時は看護師の同行や情報提供書の作成によって安心を提供している。	入居以前のかかりつけ医を継続している。通院にあたっては基本的に家族に対応してもらっているが、医師に情報が伝わりにくい場合や専門医の受診については必要に応じて職員が同行している。往診を受けられる体制はないが、夜間・休日等は協力病院での受診が可能であり、利用者・家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に医療的ケアの方向性や受診の必要性など、情報交換を行い、介護職と看護師の連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の相談員や地域連携室の看護師、またご家族との情報交換を行い、退院時にスムーズに受け入れができるように調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及びサービス担当者会議で、ご利用者の終末期の対応について、ご家族の意向を確認している。そこで事業所のできること、できないことをお伝えし、共通の認識のもとで支援している。	入居時に、事業所の終末期に対する指針について説明し、利用者・家族から了解を得ている。往診を受けられる体制が整わず、看取りについては実施出来ない環境にあるが、重度化した場合には早い段階から利用者・家族の意向を確認し、できる限り事業所での暮らしの継続を支援するとともに、入院・住み替え等への支援を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年も消防署の協力のもと、普通救命講習会で心肺蘇生法の学習を実施した。後期には感染症予防に向けた学習会を予定している。	利用者の急変や事故等に慌てずに的確な対応ができるように定期的な研修を実施している。毎年消防署の協力を得て救急救命法の講習会を行い、職員のほか、家族や民生委員にも参加も呼びかけている。また、事故が発生した場合は全職員で検証を行い、再発防止策の評価を実施して、同様の事故を繰り返さないように徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練は消防署の立ち会いで、地域の消防団やご家族の協力を得て実施している。ご利用者も参加し、日中の地震から火災、夜間の火災を想定した避難訓練を実施した。また、被災状況に合わせてBCPによる30分～1時間の対応マニュアルに沿った図上訓練も行っている。	避難訓練については夜間も想定した訓練も含めて、家族や地域の消防団の協力を得ながら実施できている。地域の事情により、地域での自主防災訓練が実施されていないこともあり、地域全体の中での事業所の役割等が不透明な点などが課題となっている。また、地域的に水害の発生が多い環境にあるが、水害対策についての取り組みに未整備の点がある。	火災については夜間等に職員が手薄になる時間も多いため、引き続き近隣住民の協力が得られるように働きかけることが望まれる。また、水害についても利用者一人ひとりの状態をふまえながら具体策を検討し、有事に備えられるよう取り組んでいくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念に基づき、その人らしさを尊重した言葉かけや対応に注意している。随時、接遇面やプライバシーの確保について、朝会や申し送りで気づきを報告しあい、振り返る機会としている。	一人ひとりの利用者を尊重することや、接遇に関しては、法人として最も大切にしていることであり、全職員にその理念が根付いている。また、適切な言葉掛けや利用者の視点に合わせた対応が実践できているかを職員で振り返る機会を持ち、さらに職員の意識付けができるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉では十分に意思表示できない場合も、表情や動きから、ご本人の思いや希望を汲み取れるように努めている。また、行事や外出の参加、各種の活動においても選択できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望とニーズをプランに組み込み、ご本人のペースを優先している。職員はその状態や動きに合わせて柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から、身だしなみに心がけ、外出時にはご本人と一緒に衣類を選んで、おしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から、ご利用者のできる力を活かして、準備や後片付けを一緒に行っている。また行事やおやつには季節感を味わえる内容を考えて、職員と一緒に調理して楽しんでいる。	一人ひとりの利用者が、下ごしらえや配膳、下膳等できることを役割として担い、食事づくりに参加している。献立は法人の管理栄養士が作成しているが、地域住民から野菜等の差し入れがあった際や利用者の希望により、随時メニューの変更を行っている。食事はゆったりとした時間の中で職員が話題を提供したり、笑い声が聞こえるなど、和やかな雰囲気であった。「干し柿」や「冬瓜ジャム」などのおやつ作りも利用者と職員と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事量や水分量、好みを知り、必要な支援に努めている。摂取量少ない方については、主治医に相談して栄養補助食品を処方してもらい、プランに組み入れて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学習し、毎食後の口腔ケアは定着している。そこで異常の早期発見に努め、受診や訪問歯科診療につないでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレを活用してオムツ内の汚染減少に努めている。また、家族とも相談し、ポータブルトイレの購入をお願いし、段階的に自立に向けた支援に取り組んでいる。	排泄は生活への影響が大きい重要なものであると捉え、支援を行っている。排泄チェック表を活用して利用者の排泄状況を確認し、支援の必要な利用者には、トイレでの排泄を目標に時間誘導を実施したり、段階的に排泄用品を工夫して使用するなど、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のご利用者には、起床時に水や牛乳をすすめ、運動やマッサージ、定時のトイレ誘導など、時間や方法にも工夫を重ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の状態や希望に応じて、併設事業所の大浴槽も活用しながら支援している。以前、入浴を好まなかったご利用者についても、気の合うご利用者や職員の誘いによって、定期的に入ることができている。	入浴は1階の小規模多機能型居宅介護事業所の浴室を使用しているため、広く使いやすい造りとなっている。利用者にとっては、入浴時間が職員とゆっくり過せる時間となっており、そのことも楽しみにつながっている。入浴拒否をしていた利用者も職員の関わりによって入浴が日常化するなど、寄り添ったケアの成果が見られている。基本的には週2回の入浴ではあるが、状況によって回数は変更でき、「お茶風呂」などの変わり湯も楽しみとして提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの年齢や体調、生活リズムを考慮しながら、活動時間と休息時間の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報一覧表を用いて、内容や副作用を確認している。薬の変更時は経過観察を記録し、次回受診時の情報提供に役立てている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は季節に合わせた行事や活動内容を提案し、実施している。その他、ご利用者一人ひとりの生活歴やできる力を活かした支援に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や季節に合った外出支援を行っている。午前午後共に1階に降りて共同で過ごしたり、テラスで日光浴など、気分転換を図っている。また、日用品の買い物については天候の良い日に希望を伺って、一緒に出かけている。	事業所周辺など戸外に出たり、1階に降りるなど、日常的に利用者が事業所の中だけで過ごすことがないようにしている。天気の良い日は車で近くの公園に出かけたり、利用者の希望に応じて買い物に行くなど外出を支援している。年間行事として、近くの観光スポットや花見など遠出もしており、外出後は利用者の生き生きとした表情を見ることができ、言葉の表出も多くなるなどの効果が得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な金銭管理は行っていないが、自己管理困難な方に対しては一時預かりなど、トラブル防止の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しているご利用者やご家族への電話連絡を希望されるご利用者に対して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて炬燵やテーブルを配置し、ご利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごしていただける空間作りに努めている。	建物2階にあるグループホームの入り口は和風の設えで、食堂・居間・廊下共に畳敷きであり、温もりが感じられる造りとなっている。また、廊下や共用空間は広く、利用者は自由に思い思いに過ごすことができている。壁面には過度な飾りつけはせず、利用者と職員が作成した工作絵がシンボリックに掲示されている。全体的に整理整頓が行われており、居心地よく過ごせる空間づくりへの支援が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でもご利用者同士の会話が楽しめるように居場所作りに配慮し、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の床を全面畳敷きで落ち着ける空間としている。壁には家族の写真や愛用品を飾って安心できる環境に工夫している。	居室は畳敷きで暖かく、ベッドと洗面台、整理棚が備え付けられている他は、自宅からの自由な持込が支援されており、自宅との暮らしにギャップが少ないように居室づくりが行われている。家族写真やカレンダー、絵などが持ち込まれており、利用者は思い出の品に囲まれて落ち着いて過ごすことができている。入り口には家族と共に表札に花等の飾り付けを行うなど、利用者にとってわかりやすい工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の変化を最小限に抑えて、自ら行えることを支援して、自立した生活が送れるように見守りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				